

Nipponham Group Integrated Report 2023

Chapter 1 価値創造ストーリー

3 経営者メッセージ



- 9 グループのあゆみ
- 11 企業理念とVision2030
- 13 たんぱく質とニッポンハムグループ
- 17 価値創造プロセス
- 19 市場・業界動向とリスク・機会
- 20 資本活用
- 21 「中期経営計画2023・2026」の進捗
- 27 CFOメッセージ

Chapter 2 事業と成長戦略

- セグメント情報
- 31 At a glance
- 33 加工事業本部
- 37 食肉事業本部
- 41 海外事業本部
- 45 ポールパーク・その他事業

49 北海道とニッポンハムグループ



Chapter 3 サステナビリティ・マネジメント

- 54 基本的な考え方とサステナビリティ推進体制
- 55 Focus 1 人財戦略
- 59 従業員の成長と多様性の尊重
- 61 人権の尊重
- 62 Focus 2 気候変動への対応
- 65 持続可能な地球環境への貢献
- 67 サステナビリティ・トピックス

69 Focus 3 ガバナンス鼎談 会長×社外取締役



- 75 コーポレート・ガバナンス
- 85 役員指名検討委員会委員長メッセージ

Chapter 4 会社データ

- 93 連結財務諸表(10カ年)
- 95 企業情報 / 株式情報



情報開示体系と統合報告書の位置付け

■ 財務情報 ■ 非財務情報

PDF				WEB (HTML)
統合報告書 	有価証券報告書 	決算短信 	中期経営計画2023 説明会資料 	IR情報
サステナビリティ レポート 	データブック 	コーポレート・ ガバナンス報告書 		サステナビリティ

編集方針

「統合報告書2023」は、株主・投資家並びにステークホルダーの皆様へ、年次業績を報告するとともに、厳しい情勢認識のもと、ニッポンハムグループの「変革」と「Vision2030」実現に向けた挑戦、中期経営計画の進捗、マテリアリティの実践状況を知っていただくことを目的に発行しました。本報告書をきっかけにご理解を深めていただき、より深い対話に結び付けることができれば幸いです。発行にあたっては、IFRS財団(旧VRF)「統合報告フレームワーク」や、経済産業省が提唱する「価値協創のための統合的開示・対話ガイダンス2.0」を参考にしました。



対象範囲

日本ハム(株)および国内外の連結子会社70社(2023年3月31日現在)

対象期間

2022年4月1日～2023年3月31日 掲載内容は、一部報告対象期間以前・以後の情報を含みます。

会計基準に関する注記

当社は2022年3月期において、当社の連結子会社であったマリンフーズ(株)の全株式および関連する資産も譲渡し、同社およびその子会社等の事業を非継続事業に分類しました。これに伴い、2022年3月期、2021年3月期の売上高および税引前当期利益の金額については、非継続事業を除いた継続事業の金額を表示しています。2019年3月期第1四半期連結会計期間の連結財務諸表より、国際財務報告基準(IFRS)を任意適用しています。当社は、2022年3月期第1四半期より、新たな事業領域への拡充を図る目的で、球団事業および新規事業などを「その他」に区分して開示しています。また、2022年3月期第1四半期より、報告セグメントの業績をより適切に反映させるため、売上高の算定方法を変更しています。この変更については、前期以前の数値を遡及修正しています。ただし、2020年3月期以前の数値は未監査です。当社は2023年1月31日開催の取締役会において、最適な事業ポートフォリオ構築に向け、連結子会社であるBreeders & Packers Uruguay S.A. (BPU)の全株式をMinerva S.A.に譲渡することを決議しました。これにより、2022年度(2023年3月期)においては、BPUに関連する牛肉事業を非継続事業に分類し、事業利益率は非継続事業調整後の事業利益率(282億円)を用いて算出しています。

見通しに関する注意事項

この統合報告書には、当社の将来についての計画や戦略、業績に関する見通しの記述が含まれています。これらの記述は当社が現時点で把握可能な情報から判断した仮定および所信に基づく見通しです。また、経済環境・市場動向・為替レートなどの外部環境の影響があります。従って、これら業績見通しにのみ全面的に依拠することはお控えいただきますようお願いいたします。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これら業績見通しと異なる結果となりうることをご承知おください。